

讀  
一  
等

佐澤太郎編纂  
尋常小學第三讀本  
上卷

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 8 0 0 3 a

福岡教育大学蔵書

T1A3

10

Sa99j

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5



佐澤太郎編纂  
塚達校閱

# 尋常小學第三讀本

明治二十年六月十三日

東京

文部省檢定済

文榮堂藏版

尋常小學第三讀本 上卷

尋常小學  
科之印

第一課

忘 十 百

一郎は朝早く起き、學校に行きて  
本を讀めり。一郎は家に歸り學校

佐澤太郎編纂  
塚達校閱



にて學びたる本を讀むに一字も  
忘れたることなし。  
一郎は何故に學び  
たる本を忘れざる  
や。一郎は他人の一  
たび讀む所は十た  
び之を讀み。他人の



十たび讀む所は百たび之を讀む  
がためなり

## 第二課

### 講書體 行書

一郎ハ。常ニ惡シキ遊ビヲ為ルヲ  
好マズ。本ヲ讀ミテ後ハ。勉メテ字  
ヲ習ヘリ。一郎ハ能ク手本ヲ見テ





字ヲ習ヘリ。汝等ハ今一郎ノ大ナル紙ニ書キタル字ヲ讀ミ得ルヤ。又其字ヲ講ジ得ルヤ。此書體ハ何ト云フヤ。此書體ハ行書ナリ。汝等モ亦一郎ノ如ク

行書ヲ書クコトヲ學ブベシ

### 第三課

草書 日用 書類

二郎も一郎と同じく字を書けり。此書體は一郎の書きたるものと同じきか。否異なり。此書體を何と云ふや。此書體を草書と云へり。汝



等も二郎の如く草  
書を書き得るや。草  
書と行書とは。日用  
の書類に多く用ふ  
るものなれば。汝等  
も能く之を習ふべ  
し。



第四課

楷書 書取

平生

三郎モ同ジク字ヲ  
書ケリ。此書體ハ行  
書ニモアラズ。又草  
書ニモアラズ。此ヲ

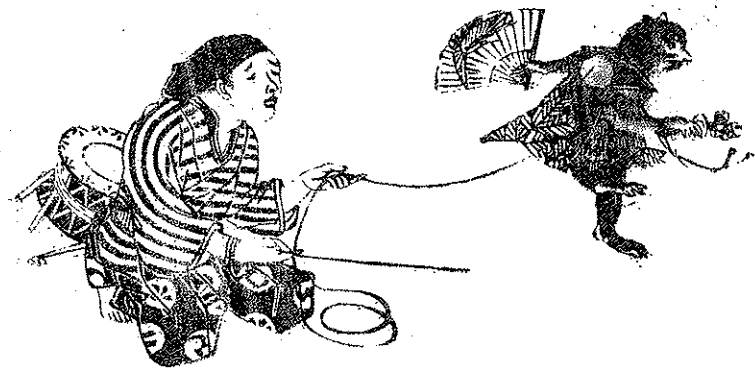




楷書ト云ヘリ。楷書ハ汝等ノ日々  
書取等ニ用フル書體ニシテ平生  
ノ書物ニ書ケル字ハ皆此楷書ナ  
リ。汝等モ能ク此楷書ヲ書クコト  
ヲ習フベシ

第五課

猿 指揮 舞 踊 獸類 言



語 事物 理  
考 智 萬物  
靈 誠 教 恥  
汝は猿の人の指揮  
に従ひ舞ひ踊るを  
見しや。猿は何故に  
能く舞ひ能く踊る



三才圖會 卷之三 第三節  
や。是人の能く教へたるが故なり。  
此猿は固より一の獸類なれば聲  
を發すれども言語する能はず。又  
事物の理を考ふる智なし。然れど  
も之を教ふれば猶此のごとし。夫  
人は萬物の靈にして能く言語し  
能く事物の理を考ふる智を具へ

又之に加ふるに家にありては父  
母の誡めあり。學校に出でゝは教  
師の教へあり。然れども其誡めを  
守らず。其教へに従はざれば實に  
此猿に對して恥ることなきか

第六課

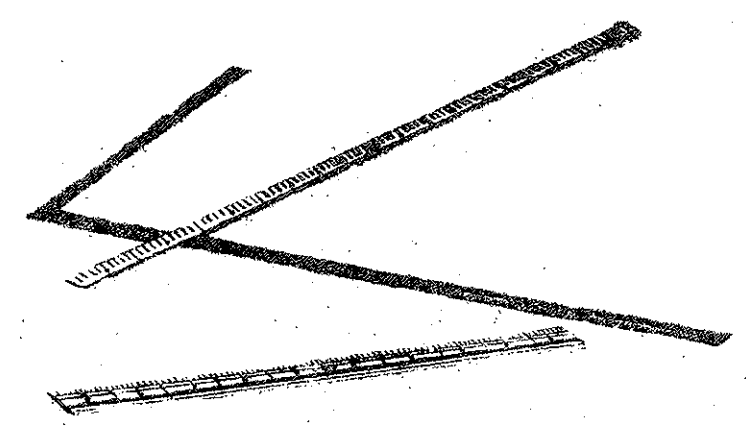
尺度 測 物指 衣服 鯨尺



曲尺 十釐 一分 一寸 一尺

一丈 當

尺度トハ長サヲ測ルニ用フル物指ノ名ナリ。衣服ヲタチ又ヒスルニ用フル



モノヲ。鯨尺トイヒ。大工ナドノ用フルモノヲ。曲尺トイフ。尺度ノ目ハ十釐ヲ一分トシ。十分ヲ一寸トシ。十寸ヲ一尺トシ。十尺ヲ一丈トス。鯨尺ノ一尺ハ。曲尺ノ一尺ニ寸五分ニ當ルナリ

第七課





なれども人に馴れ	鹿は山野に棲む獸	彫刻 材用	年 最良 革	物 雌 雄 年	馴 易 常 食	鹿 山野 獸
----------	----------	-------	--------	---------	---------	--------

易し。常に草木の葉を食物とす。雄には角あり。角に岐あり。其角は年に生換れり。雌には角なく。形稍小し。皮は最良の革となり。毛は筆を造り。角は彫刻の材用となる。

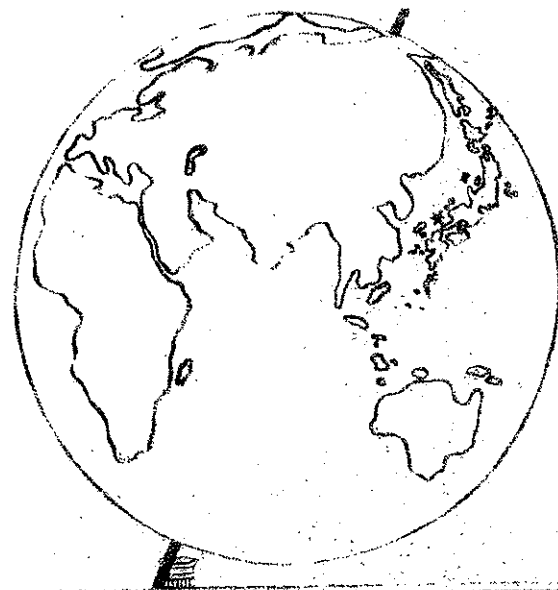
第八課

湛海陸 島嶼 平原



無數

地球ハ圓體ニシテ  
表面ニ高低アリ。水  
ノ低キ所ニ湛ヘタ  
ルヲ海ト云ヒ。水上  
ニ出デタル地ヲ陸  
ト云フ。其大ナルモ



ノヲ大陸ト云ヒ。小ナルモノヲ島  
ト云ヒ。又嶼ト云フ。陸地ノ廣ク平  
カナル所ヲ平原ト云ヒ。最モ高キ  
所ヲ山ト云フ。我日本國ハ。四大島  
ト無數ノ島嶼トニテ國ヲ成セリ

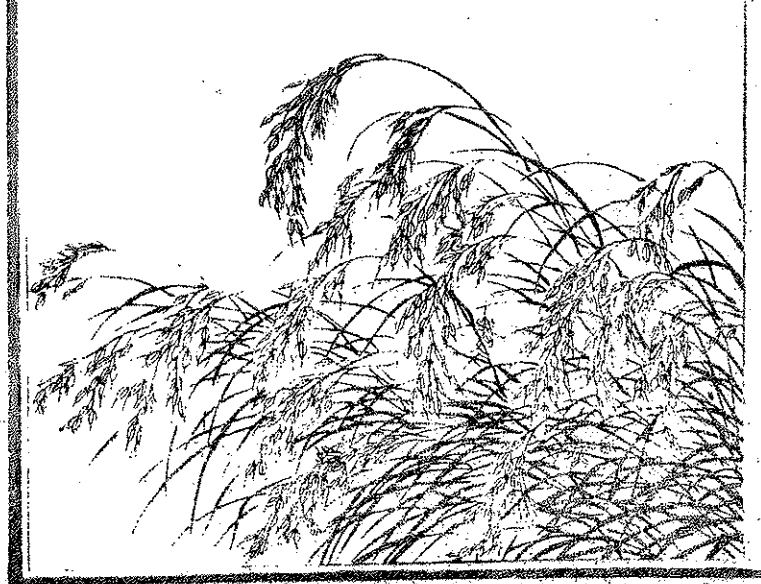
第九課

粳 糯 飯 炊 餅 早稻



中稻 晚稻 陸稻

稻には。粳と糯とあり。飯に炊ぐものを  
粳と云ひ。搗きて餅と  
とするものを糯と  
云ふ。皆早稲中稲晚  
稲の別あり。稲は多



く水田にうゝれども畑に植るものあり。之を陸稲と名づく。皆我等が食ふ大切の食物なり

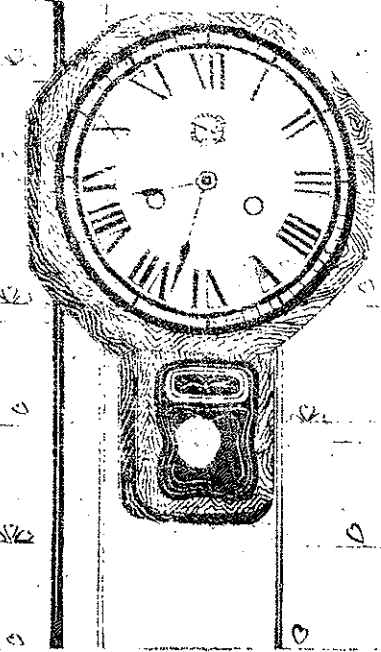
第十課

時 正午 時計 器 長針

短針 周 至 羅馬 數字

一日ノ時間ハ二十四時ナリ。日ノ





中スル時ヲ正午  
 トイヒ其前後ヲ  
 分チテ午前ヲ十  
 二時トシ午後ヲ  
 十二時トス今汝ハ時計ヲ見タリ  
 ヤ時計ハ時ヲ知ル器ナリ中ニ長  
 針ト短針トアリ其周リニ時間ヲ

記シテ一ヨリ十二ニ至ル是ヲ羅  
 馬數字トイフ

- |      |    |     |     |     |    |     |
|------|----|-----|-----|-----|----|-----|
| I    | II | III | III | V   | VI | VII |
| VIII | IX | X   | XI  | XII |    |     |

第十一課

既 盡 枯 厭 負 闕 席  
 天既に明けたれども日未だ出で

善常小學科 第三言部  
ず北風甚だ寒くし  
て雪將に降らんと  
す路上の木葉は落  
ち盡して草は皆枯  
れたり川の岸には  
氷結び橋の上には  
霜満てり梅吉と鶴



治とは此寒氣をも厭はず學校に  
行かんとす一人は石盤を負ひ一  
人は本を抱きて歩めり此小兒は  
兄弟なり此兄弟は如何なる日に  
も闕席することなく學校に至り  
ては能く教師の教へに従ひ又能  
く朋友と交はれり此兄弟は善き



小兒なれば。後には必ず賢き人と  
為るべし

第十二課

炎暑 熱 恰 湯 稀 竿  
蜻蜓 殺 病氣 惹 愚  
炎暑甚シクシテ一天雲ヲ見ズ 稻  
田水熱シテ恰モ湯ノ如シ 田間ノ



道路ハ樹蔭少クシ  
テ行ク人稀ナリ。此  
夏日正午ノ時ニ當  
リテ一人ノ男兒ハ  
竿ヲ以テ蜻蜓ヲ打  
ントス 蜻蜓ハ飛ビ  
廻リテ容易ニ捕フ

ルコトヲ得ズ。一人ノ男兒ハ蛙ヲ捕ヘテ之ヲ打チ殺セリ。此小兒ハ父母ノ命ヲ用ヒズ。學校ニ行カスシテ出デ遊ブナリ。此小兒等ノ如ク炎天ニ出デ遊ブ時ハ恐ルベキ病氣ヲ惹キ起スコトアルベシ。此小兒ハ惡キ小兒ナレバ必ズ愚力

ナル人トナルベシ

第十三課

假名 覺 用 變體

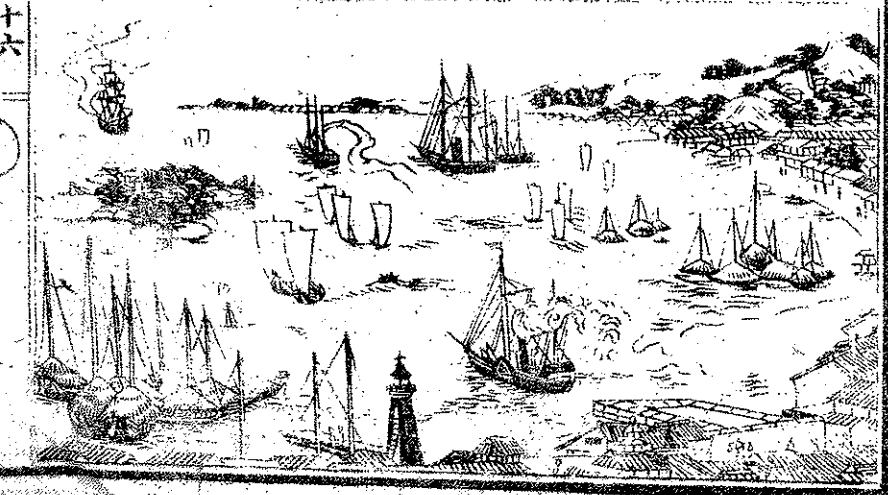
汝等はひら假名と片假名とのかひ方を能く覺江たりや。私等は能く覺江たり。然らば假名にへんたいあり。平假名とまじへて用ふ





良港 彎月 負 避 船舶  
 輻輳 絶 汽笛 武蔵ノ横濱  
 攝津ノ神戸 越後ノ新潟  
 肥前ノ長崎 渡島ノ函館 交  
 易 繁榮  
 是ハ何處ノ港ナルヤ。海岸ハ彎月  
 ノ形ヲナシ。三面ニ山ト岡トヲ負

ヒテ最モ風ヲ避ルニ  
 宜シ。大小ノ船舶常ニ  
 港内ニ輻輳シ。汽船ノ  
 往來晝夜ニ絶エズ。黒  
 煙ヲ噴キテ出ヅルモ  
 アリ。汽笛ヲ鳴シテ入  
 ルモアリ。實ニ良港ト



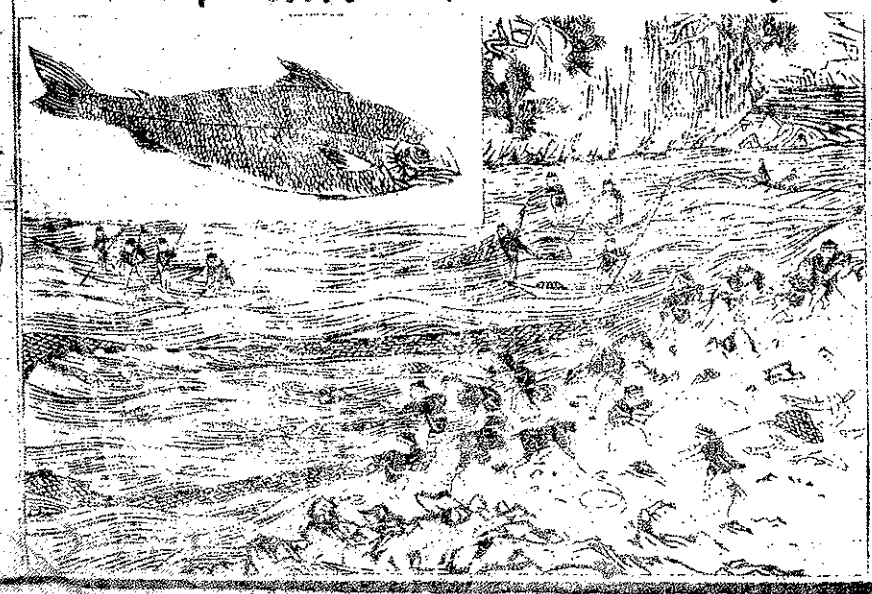


イフベシ。汝等ハ我國五港ノ名ヲ  
知レリヤ。五港トハ。武蔵ノ横濱。攝  
津ノ神戸。越後ノ新潟。肥前ノ長崎。  
渡島ノ函館ヲ云フ。皆各外國トノ  
交易場ニシテ。最モ繁榮ノ地ナリ

第十五課

汴 再 曝 人工 殖 塩 引

鮭ハ秋に至るバ。海  
より河流ニ汴りて  
卵を産む。産み終れ  
む。流を下りて再  
び海ニ入る。故ニ漁  
人ハ此上下の時節  
を待ちて之を捕ふ。



其河小産みしる卵ハ。春至まきバ  
孵りて海に下り。秋小至まきバ  
河に洄りて卵を産む。近年冬人工  
を以て其卵を孵し。之を湖水又ハ  
河流に放ちて養ふ。故に人工を以  
て益殖を得べし。鮭の塩漬した  
るものを塩引といふ。昔より北海

道を以て産地の第一とす

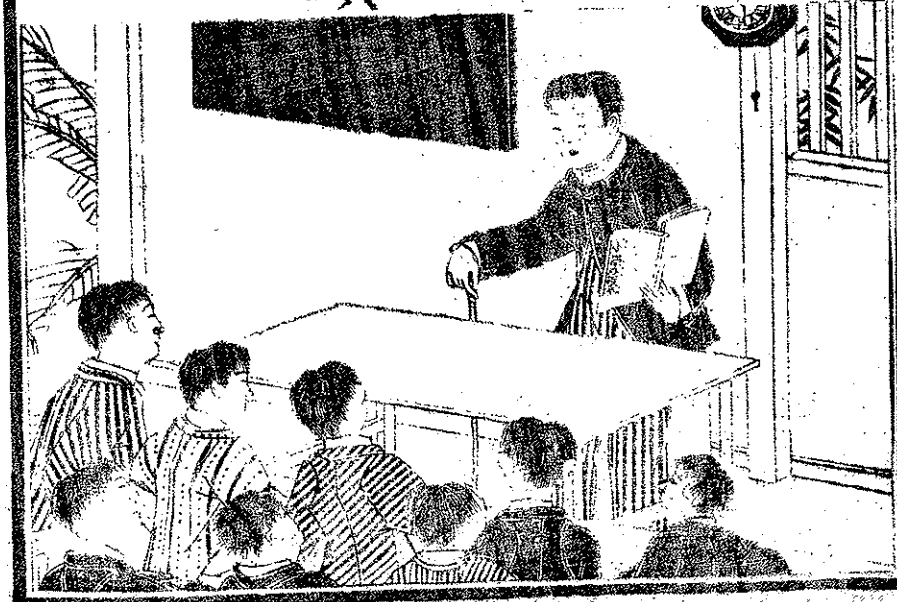
### 第十六課

勉強 汝等 父 朋友

余ハ汝等ノ勉強シテ。此本ヲ讀ミ  
終ルヲ喜ベリ。然レドモ。余ハ汝等  
ノ徒ニ此本ヲ讀ミ終ルヲ喜ブニ  
アラズ。余ハ汝等ガ此本ニテ讀ミ



覺エタルコトヲ能  
ク父母朋友ニ話シ  
得ンコトヲ欲スル  
ナリ。余ハ汝等ガ左  
ニ記シタル字ヲ讀  
ミ。又ハ解キ明スコ  
トヲ望ムナリ



子。本。草木。机。小女。花。人形。箱。上。中  
下。牛。夏。秋。馬。梅。椿。魚。鳥。池。小兒。犬。  
猫。君。余。私。紙。石。盤。友。一事。系。山川。  
舟。春。氣。色。靜。波。霞。又。筆。學。問。讀。本。  
字。汝。石。豆。數。合。鼠。門。毬。羽。子。稻。月。  
鰭。蛙。自。在。樹。松。書。物。庭。枝。車。帽。禮。  
日。月。星。朝。夜。天。間。先。後。太。郎。手。習。

算術。雁空。行儀。樂餘。念學校。岸已。  
我等。世界。地球。形圓。橙陸。表面。三  
倍。兒共。先人間。片手。左右。東西南  
北。我國。帝國。大日本。國旗。旭日。紋  
上古。天孫。帝室。皇統。千代。八千代。  
苔熊。羅深。山全身。喉嚨。彎月。膽藥。用  
數物。黃色。間人。畜書。體楷。書行。書。

草書。日用。書類。書取。平生。田稻。杖  
老人。孫心。空風。日數。閏年。種々。鬚  
汁。食物。猿指。揮獸。類言。語事物。理  
智。萬物。靈尺。度物。指衣。服鯨。尺曲  
尺分。釐鹿。山野。食物。雌雄。年々。最  
良。革彫。刻材。用海。陸島。嶼。平原。無  
數。粳。糯。飯餅。早稻。中稻。晚稻。陸稻。



春。夏。秋。冬。時。正。午。時。計。器。長。針。短。針。羅。馬。關。席。炎。暑。湯。竿。蜻。蜓。病。氣。愚。假。名。變。體。良。港。彎。月。船。舶。輻。輳。汽。笛。武。藏。橫。濱。攝。津。神。戶。越。後。新。潟。肥。前。長。崎。渡。島。函。館。交。易。繁。榮。人。工。殖。塩。漬。汝。等。父。朋。友。此。其。是。彼。常。に。皆。益。も。夫。れ。若。し。

何。故。に。此。處。彼。處。否。者。殆。と。何。方。只。毎。よ。十。百。既。り。恰。も。徒。に。

大。小。坐。赤。白。黒。面。白。長。短。吸。高。卑。細。太。賢。愚。合。忙。深。易。難。廣。稱。善。惡。幼。

レレリラン 泳	突 ケクキカン	轉 レレリラン	持 レレリラン	講 レレリラン
泳 ゲグギガン	畜 ヘフヒハン	躍 レレリラン	好 テツチタン	見 メムミマン
登 レレリラン	勤 メノム	書 レレリラン	交 レレリラン	立 レレリラン
行 ベフビハン	捕 ケクキカン	聞 テツチタン	稀 レレリラン	稀 レレリラン
疲 レレリラン	勉 ケクキカン	卧 セスシサン	成 レレリラン	步 メムミマン
向 レレリラン	守 レレリラン	讀 メムミマン	疑 ヘフヒハン	抱 ケクキカン
咲 ケクキカン	知 レレリラン	飲 メムミマン	卷 ケクキカン	乘 ケクキカン
當 レレリラン	然 ケググ	食 ケクキカン		

殺 セスシサン	考 ヘフ	言 ヘフヒハン	引 ケクキカン	出 デ
惹 ケクキカン	既 テツチタン	譏 レレリラン	飛 バフビハン	問 ヘフヒハン
周 レレリラン	闕 ケクキカン	舉 ゲググ	辱 メムミマン	現 レレリラン
覺 エユ	誠 メムミマン	忘 レレリラン	過 ゲググ	揚 ゲググ
用 フヒ	教 ヘフ	生 レレリラン	慎 メムミマン	廻 セスシサン
終 レレリラン	恥 ツヂ	舞 ヘフヒハン	折 レレリラン	遊 ベフビハン
解 ケクキカン	測 レレリラン	踊 レレリラン	佳 ベフビハン	劣 レレリラン
明 ヘフヒハン	馬 レレリラン	川 レレリラン		



望

明治二十年十一月三十日永  
代八錢六厘  
貧民貸其本

尋常小學第三讀本 上卷終

社会科

明治十九年十一月九日版權免許  
同二十年六月五日訂正出版  
定價金八錢八厘

編纂者 廣島縣士族 佐澤太郎

東京府士族 本郷區野辺町十番地

校閱者 茨城縣平民 塚達

出版人 宮本行靖

同縣士族 深川區御船藏前町六番地

同縣士族 谷本松

發兌 文榮堂

神田區山本町二十五番地

大賣捌 星文館

福岡縣福岡區下名島町



